リハビリテーション総合実施計画書

計画評価実施日: 年 月 日

										н г — г н		. 1 /1 [
患者氏	名:		男·女	生年月	月日(西暦)	ı	年	月	日(歳)	利き手	右・右(矯正)・左
主治医		リハ担当医		PT		ОТ		ST		看護		SW等
診断名、障害名(発症日、手術日、診断日):			合併症	(コントロー	ル状態)	:		IJ	ハビリテー	ーション歴:		
日常生	2, C1, C	、C2 認知症高齢者の日常生活自立度判定基準: I, IIa, IIb, IIIa, IIIb, IV, M					Ⅲa, Ⅲb, Ⅳ, M					
並には日 中党 (· · › (· · ·) · · · · · · · · · · · · · · ·							Æ≓±		(,	口公()	Ħ	H-64-マープロ エ

日 吊 生 伯 日 立 及 : J1、J2、A1、A2、B1、B2、C1、C2 1 応 対 止 同 即 目 の 日 吊 生 伯 日 立 及 刊 た 差 毕 : 1 , 11 a, 11 b, 11 a, 11										
		山忠	(. (1-421-	- B 11-11-1-1-2-2-3-3-3-3	短期日無 (、日效)	F HARRY T.			
心身機能・構	評価項目・ □意識障害(JC: □見部識障害: □見銘動障害: □感覚度障害: □排吸、方質をです。 □関が、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは	内容 S、GCS) 手: 手(構音、 限:	(コロン(<u>:</u>):	の後ろに	工具体的内容を記入)	短期目標(ケ月後)	具体的アプローチ			
	基本 起き上がり(動作 立ち上がり(立位((□自立 (□自立 (□自立 (□自立		部介助 [部介助 [部介助 [部介助 [□全介助): □全介助): □全介助): □全介助): □全介助): □動時のリスクについて)					
	ADL (B. I.)	自立	一部介助	全介助	使用用具(杖、装具)、介助内容	短期目標	具体的アプローチ			
	食事	10	5	0						
	移乗	15	10 ←	-監視下						
	座れるが移れな	座れるが移れない→		0						
	整容	5	0	0						
	トイレ動作	10	5	0						
活	入浴	5	0	0						
動	平地歩行	15	15 10←歩行器等		歩行:					
	車椅子操作が可能 → 5			0	車椅子:					
	階段	10	5	0						
	更衣	10	5	0						
	排便管理	10	5	0						
	排尿管理	10	5	0						
	合計(0~100点)	点		点						
	コミュニケーション 理解		F							
	-\\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	表出								

	評価	短期目標		具体的アプローチ			
	職業(□無職、□病欠中、□休職中、	退院先(□自宅、□親族宅、□]医療機関、				
参加	□発症後退職、□退職予定)	□その他	(
	職種・業種・仕事内容:	復職 (□現職復帰、□転職、□ □復職不可、□その他					
	経済状況:	復職時期:	,				
		仕事内容:					
	社会参加(内容、頻度等):	通勤方法:					
	 余暇活動(内容、頻度等):	家庭内役割: 社会活動:					
	7. (1113) (1) Pa (28) X (1) .	趣味:					
	身長 ^{#1} :()cm、体重:()kg、	摂取栄養量:(目標: kc	cal)				
	BMI ^{#1} : ()kg/m ² #1 身長測定が困難な場合は省略可	体重増加/減量:(目標:	kg)				
	栄養補給方法(複数選択可): □経口(□食事、□補助食品)	栄養補給方法(複数選択可):					
	□経官(□及季、□補助及吅) □経管栄養、□静脈栄養(□末梢、□中心)	□経口(□食事、□補助食品					
	嚥下調整食の必要性:	□経管栄養	,				
栄養	□無、□有(学会分類コード:)	□静脈栄養(□末梢、□中心	7)				
(※)	栄養状態: □問題なし、□低栄養、□低栄養リスク □過栄養、□その他()	その他:					
	□旭木後、□℃Ⅵ匝(FCV/IE.					
	【「問題なし」以外に該当した場合、以下も記入】						
	必要栄養量: ()kcal、たんぱく質()g						
	総摂取栄養量型(経口・経管・静脈全て含む): ()kcal、たんぱく質()g						
	#2 入院直後等で不明な場合は総提供栄養量でも可						
	抑うつ:						
) =m	障害の否認:						
心埋	144 FT « > FT BPD.						
	その他:						
	同居家族:	自宅改造					
	親族関係:	□不要、□要: 福祉機器					
	10 40 40 40 FT	□不要、□要:					
環境	家屋:	社会保障サービス					
	家屋周囲:	□不要、□身障手帳、□障害□その他:	年金				
	20/21/79 ptg •	□での他: 介護保険サービス					
	交通手段:	□不要、□要:					
	発病による家族の変化	退院後の主介護者					
	社会生活:	□不要、□要:					
第三	健康上の問題の発生:	家族構成の変化 □不要、□要:					
者の		□ 小安、□安: 家族内役割の変化					
不利	心理的問題の発生:	□不要、□要:					
		家族の社会活動変化					
1). 🗏		□不要、□要:					
エカノ	後の目標:	本人の希望:					
		家族の希望:					
リハト		I タ	外泊訓練計	画:			
	A CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR		THAM WALL	•			
退院時の目標と見込み時期 :							
退院	後のリハビリテーション計画 (種類・頻度・期間):						

本人・家族への説明:	年	月	日	説明を受けた人:本人、家族()署⁄	名:	

説明者署名:

(リハビリテーション実施計画書及びリハビリテーション総合実施計画書記入上の注意)

退院後の社会参加の見込み:

- 1. 日常生活自立度の欄については、「「障害老人の日常生活自立度(寝たきり度)判定基準」の活用について」(平成3年1 1月18日 老健第102-2号)厚生省大臣官房老人保健福祉部長通知によるランクJ1, J2, A1, A2, B1, B2, C1又はC2 に該当するものであること。
- 2. 認知症高齢者の日常生活自立度判定基準の欄については、「「認知症高齢者の日常生活自立度判定基準」の活用について」(平成5年 10 月 26 日 老健第 135 号)厚生省老人保健福祉局長通知によるランク I, II a, II b, III a, III b, IV 又は Mに該当するものであること。
- 3. 活動の欄におけるADLの評価に関しては、Barthel Index に代えてFIMを用いてもよい。
- ※ 回復期リハビリテーション病棟入院料1を算定する場合は、「栄養」欄も必ず記入のこと(本計画書上段に管理栄養士の氏名も記入)